

介護ウェーブ 2018 推進ニュース

2018 年 11 月 15 日発行 No. 7 「社会保障の解体は許さない！憲法を守り生かす社会をつくろう!!」

■ 11 月 11 日は介護の日!!

11 月 11 日(日)の「介護の日」に合わせ、全国 15 都道府県で「介護、認知症なんでも電話相談」(社保協・認知症と家族の会)を実施しました。東京では午前 10 時の開始直後から電話が鳴り始め、午前中だけで 25 件、1 日で 45 件の相談がありました。会場には東京民医連から 8 名のケアマネジャーが参加し終日相談対応しました。全国では 98 件の相談を受けました。



利用料、雇用形態、認知症など相談は多岐にわたりましたが、特に多い相談は「自分の悩みをどこに相談したらよいかわからない」でした。社会保障の改悪で自治体の窓口機能の低下が反映しています。また、だれにも頼れず一人で介護を行うことの不安やストレスへの相談も目立ちました。「介護殺人」「介護心中」は介護の困難さを一人で抱え込むことが大きな要因となっています。安倍政権が進めてきた「自助」政策が大きな誤りであることが改めて浮き彫りとなりました。

＝ 以下相談内容の一部 ＝

- 施設に入所しているが、毎月の支払いが年金を超え、貯金を切り崩して過ごしている。昼食は自分で準備するなど節約しているが、いつまで持つのか不安がある。ケアマネジャーは顔を出してくれないので相談もできない。
- 夫婦で暮らしをしている。二人とも今は元気なので介護サービスは使っていない。でも、頼れる人がいないので、いざ介護サービスが必要な時、だれに相談したらよいかわからない。今はいいが将来に不安がある。
- 友人付き合いも趣味もやめて妻の介護を一人でやっている。今後も一人でやっていくつもりだが、妻の状態が悪化した時や自分に何かあった時のことを考えると不安が募る。
- 妻が入院中に認知症を発症してしまった。3 ヶ月まえに退院し家族 3 人で介護をしている。しかし、入浴や排泄などの介護を拒否してしまう。みんな疲れてしまった。どうしたらよいかわからない。
- 父の介護を一人で行っている。認知症はないが耳が遠く、コミュニケーションが取れなくて辛い。大きな声を出すだけで疲れてしまう。疲れや辛さを周りに相談しても「皆同じ大変さの中頑張っている」「イライラしないように」など気持ちを共有できない。父には在宅で気持ち良く過ごしてほしいが自分のストレスを吐き出せる場所がない。

■ 現場の思いを国会へ!!

11 月 13 日(火)に 8 県連 39 名の参加で国会議員要請行動を行いました。行動には日本共産党の衆議院議員、宮本徹氏から国会情勢の報告を受け愛知民医連の山口さんと矢沢さんの 2 名から「国の責任で社会保障制度の拡充を求める請願書」約 15,000 万筆、「戦争法の廃止を求める統一署名」約 14,000 万筆を含む 7 署名 44,508 筆を提出しました。



また、当日は社保学習が企画され2つの講演を受けました。前半は林次長から『「全世代型社会保障」構想と消費税10%増税—社会保障・税一体改革の「総仕上げ」』のテーマで、これまでの「社会保障と税の一体改革」の軌跡から第4次安倍内閣が遂行しようとしている政策の問題について講演がありました。

後半は山本次長から『いのちをまもれる国保に ～学習し、改善に取り組もう～』のテーマで、国保と国保加入者の現状の講演があり、国保の学習を現場で進めていくことが提起されました。国保の学習では社保運動・政策部が作成した「いのちをまもれる国保に」をぜひご活用ください。



講演後に会場から「国保の学習をするに当たり、国民保険の原点は社会保障だということを忘れてはならない」と発言がありました。

社会保障は国の責任による生活・生存の保障です。来年の参議院選挙では、社会保障を大きな争点に押し上げ、私たちの求めるより良い医療・介護の実現を目指す議員を一人でも多く国会に送りましょう。

議員要請では以下の要請書を渡しました。

- 介護保険制度、介護報酬の改善、介護従事者の処遇改善を求める要請書
- 憲法9条の改憲に反対し、平和・人権・民主主義の諸原則を生かす政治の実現を求める要請書
- 国の責任で社会保障制度の拡充を求める要請

愛知民医連では日本共産党の本村伸子衆議院議員と面会し直接要請書を渡すことができました。同席した歯科法人の職員から歯科酷書を紹介し、貧困によって口腔崩壊が広がっていることを伝えました。本村議員も興味を持ち、質問や歯科技工士の抱える問題を聞く等、有意義な時間となりました。

要請行動後の交流では「全日本民医連と聞くだけで面会を拒絶する一部の保守議員はいるものの、多くの議員は誠実に対応するようになっている」と感想が寄せられました。また、「医療・介護は信条にかかわらず取り組む課題。まだ、多くを知らない若い議員は耳を傾けてくれる。若い議員が増えた今、彼らに訴えることで社会保障を守っていけると感じた」と会場から発言がありました。



■ 介護署名推進!!

すでに多くの署名が届いています。事務局で請願署名の学習用資材を作成しました。介護保険制度の置かれている現状とこれからの動向を踏まえ請願5項目を解説したものです。入職1年目で署名活動に不安を抱えている方でも解る、少しだけ勇気を持てるようにと心がけました。各スライドに説明も添付しています。そのまま使っていただいても結構です。地域や現場、事業所の実情を加えバージョンアップさせ利用していただいても結構です。一筆でも多くの署名を集めこれ以上の改悪を阻止しましょう!!

☆☆ 署名や学習資材等は下記介護ウェブのページからダウンロードして活用して下さい。

https://www.min-iren.gr.jp/kaigo_wave/



各地の特徴的な取り組みで記事に載せたいことがありましたら事務局のメール宛に送ってください。

お問い合わせは「介護ウェブ推進本部」事務局：山川・小又

TEL：03-5842-6451 FAX：03-5842-6460 E-mail：min-kaigo@min-iren.gr.jp